

## サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：平成30年11月22日（木） 20時30分～22時30分

2. 開催場所：Shot Bar 周太郎（大阪府豊中市曾根西町3-5-33）

3. 関係団体等：なし

4. 役割

コーディネーター：中村征樹（大阪大学准教授・日本学術会議連携会員）

ゲスト：駒井章治（奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科准教授・国際高等研究所客員研究員・日本学術会議特任連携会員）

5. 概要：

今回のサイエンスカフェは、「激変する社会に適応するための「学習の科学」」をテーマに行われた。まず初めに、ゲストから「脳科学についての印象」が参加者に尋ねられ、それをきっかけに、参加者の脳科学に関する疑問にゲストが回答するという展開となった。参加者からは「意識」、「感情」、「記憶」、「脳と身体の関係性」のような、人間を理解するための重要なテーマについて活発に質問が行われ、ゲストは脳科学や心理学の考え方や研究法を例に挙げつつ、それに回答していた。この質疑応答を通じて、人間の性質や能力という複雑な概念を、脳科学がどのように捉え、研究を進めているのかが明らかになった。

ゲストからいくつかの脳科学的研究が紹介されたが、そのうちの1つに「失われた脳を元通りにする」という試みがあった。例えば、疾患や外傷などで一部が失われた脳を元通りにしたい場合、新しい神経細胞を移植するだけでは脳が元通りになったことにはならない。脳を元通りにするには、新しい神経細胞と一緒に、かつての記憶などのような情報も入れ直さなければならないと考えられる。このような考えから、場所細胞（place cell）に注目して、ネズミの場所に関する記憶を元通りにすることができるかという研究が進行中であることが紹介された。この研究事例は大きな実用的意義と同時に、記憶そのものに関する理解にも重要な意義を持つように思われる。

脳科学が持つテーマは、自然科学、社会科学、人文学を問わず、多様な領域と相互に密接に関連し、また一般の人々からの関心も大きい。それを示すように、今回のサイエンスカフェでは、異分野間、そして専門家・非専門家間の活発な意見交換が行われた。

6. 参加人数：

講演者等：3名

その他の参加者：13名

7. 特記事項：

会場となった「Shot Bar 周太郎」には、サイエンスカフェの趣旨に賛同いただき、参加者に1ドリンク以上の注文をお願いすることで会場を無償で提供いただいたほか、常連客へのイベントの告知にも協力いただいた。また、ゲストのドリンクについてサービスしていただいた。